SPECIAL REPORT

平成25年度酪農教育ファーム活動の概要

本会議は3月27日、酪農教育ファーム推進委員会を開催し、平成25年度事業を総括した。年度末の認証牧場数は年度当初の301牧場から2牧場減少し299牧場に、ファシリテーター数は同560名から42名増加し602名になる見込みである。

1.廃業等により認証牧場が減少

25年度当初の酪農教育ファーム認証牧場（以下、「認証牧場」という）は301牧場であったが、うち12牧場が廃業やファシリテーター不在等により認証を辞退し、2牧場がファシリテーターの指定を受け、新たに8牧場が認証を取得したため、25年度末には全国で299牧場となる見込みである。

表1 酪農教育ファーム認証牧場数の推移

単位：戸

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
北海道	27	30	43	45	49	51	50	53	50	51	53	48	51	56
東北	17	17	20	20	20	20	34	44	38	42	43	43	39	42
関東	25	29	37	38	40	43	43	45	49	60	65	68	72	70
北陸	4	6	6	6	7	7	7	7	14	16	17	17	14	13
東海	12	15	17	17	19	29	29	42	47	49	49	49	46	42
近畿	4	7	10	10	10	10	11	12	12	13	15	14	14	14
中国	7	9	10	11	12	12	14	15	14	17	18	19	17	16
四国	2	2	2	2	2	3	4	6	7	7	8	8	9	9
九州	17	19	21	22	21	22	23	23	23	33	38	40	36	35
沖縄	1	1	1	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	2
全国	116	135	167	174	183	200	217	249	257	291	309	309	301	299

2.認証取得によりファシリテーターが増加

25年度当初の酪農教育ファームファシリテーター（以下、「ファシリテーター」という）は560名であったが、うち19名が退職や認証期限満了等によって認証を返上し、新たに61名が認証を取得したため、25年度末には全国で602名となる見込みである。

新規のファシリテーターには、認証牧場ではないが、ファシリテーターを取得する酪農家の家族や従業員もいることから、今後、認証牧場が増える可能性が十分考えられる。また、新規のファシリテーターの年齢構成をみると、10代～30代が7割を超えていることから、酪農教育ファーム活動に対する後継者など若い世代の関心が高まっていると言える。

表2 酪農教育ファームファシリテーター数の推移

単位：名

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	前年差		
								うち新規	うち取消
北海道	70	86	96	82	81	94	13	14	1
東北	60	67	75	71	81	85	4	7	3
関東	84	119	134	135	140	146	6	10	4
北陸	38	39	40	40	38	40	2	3	1
東海	69	75	90	77	80	80	0	5	5
近畿	16	25	32	34	34	43	9	9	0
中国	19	24	31	26	23	26	3	4	1
四国	12	12	18	19	21	23	2	3	1
九州	35	56	63	57	58	61	3	6	3
沖縄	4	4	4	3	4	4	0	0	0
全国	407	507	583	544	560	602	42	61	19

3.防疫上の理由等により受入実績が減少か

（1）認証牧場での受入

25年度上期は受入35,008件、376,381人で、それぞれ前年比75.7％、57.7％と大きく減少している。減少した大きな理由としては、観光牧場等の受入人数のカウントが24年度は来場者数で、25年度は酪農体験者数であることによる。また、受入実績の報告率が低いことも原因と考えられる。

受入実績を区分別にみると、ほとんどの区分において体験者数は24年度を下回ったが、小学校については前年並みの実績であった。なお、25年度上半期に受入（酪農体験）が全くなかった牧場が36牧場あり、その理由として「防疫の関係から受入をしない」と報告した牧場もあった。

表3 認証牧場での受入実績

区分		25年度						24年度		23年度	
		件数(件)	24年度対比	23年度対比	体験者数(人)	24年度対比	23年度対比	件数(件)	体験者数(人)	件数(件)	体験者数(人)
上期	幼稚園・保育園	403	50.1%	90.6%	21,055	42.7%	56.7%	805	49,340	445	37,102
	小学校	1,241	95.2%	104.3%	73,404	99.2%	95.4%	1,304	73,967	1,190	76,952
	中学校	657	76.5%	92.1%	41,011	78.7%	78.6%	859	52,078	713	52,165
	高等学校	222	45.7%	87.7%	11,035	73.4%	108.7%	486	15,038	253	10,149
	大学・専門学校	250	82.0%	102.0%	4,253	53.7%	78.4%	305	7,913	245	5,427
	特別支援学校	157	66.5%	102.6%	3,926	58.6%	93.9%	236	6,699	153	4,181
	子ども会などの団体	1,209	84.5%	132.7%	40,122	83.6%	130.7%	1,431	48,000	911	30,701
	学校などの団体計	4,139	76.3%	105.9%	194,806	77.0%	89.9%	5,426	253,035	3,910	216,677
	個人・グループ	30,712	76.2%	219.8%	179,344	46.2%	58.9%	40,287	388,393	13,972	304,667
	外国人のグループ	160	31.5%	155.3%	2,362	21.8%	171.0%	508	10,830	103	1,381
	その他	0	－	－	0	－	－	0	0	0	0
	合計	35,011	75.7%	194.7%	376,512	57.7%	72.0%	46,221	652,258	17,985	522,725
通期	幼稚園・保育園							1,227	67,783	997	57,672
	小学校							1,973	116,950	1,908	122,026
	中学校							1,013	57,146	973	60,711
	高等学校							629	18,227	400	15,772
	大学・専門学校							415	8,832	364	7,239
	特別支援学校							347	10,039	238	6,499
	子ども会などの団体							1,910	63,780	1,324	42,007
	学校などの団体計							7,514	342,757	6,204	311,926
	個人・グループ							56,565	469,292	20,146	429,320
	外国人のグループ							627	19,197	157	2,638
	その他							0	0	0	0
	合計							64,706	831,246	26,507	743,884
調査回収率		86.1%						95%		90%	

（2）出前授業の実施

25年度上期に出前授業を実施したファシリテーターは52名、実施件数は209回であった。小・中学校、子ども会などの団体以外は増加しており、とくに幼稚園・保育園、その他の学校、イベント会場での実施が多くなっている。

口蹄疫の発生により、酪農体験の受入をしていない認証牧場もある。また、近隣に認証牧場がないことや、バス代等の経費が掛かることから牧場体験を実施できない学校もある。出前授業のニーズは多いことから、牧場体験のみならず、出前授業での酪農教育ファーム活動も積極的に取組むことが必要である。

表4 出前授業の実績

		25年度【実施者52名】			24年度【実施者59名】	23年度【実施者60名】
		件数(件)	24年度対比	23年度対比	件数(件)	件数(件)
上期	幼稚園・保育園	42	182.6%	144.8%	23	29
	小学校	41	93.2%	33.6%	44	122
	中学校	2	12.5%	5.0%	16	40
	高等学校	4	200.0%	44.4%	2	9
	大学・専門学校	6	200.0%	35.3%	3	17
	特別支援学校	3	150.0%	75.0%	2	4
	その他の学校	53	331.3%	147.2%	16	36
	子ども会などの団体	3	50.0%	50.0%	6	6
	（学校などの団体計）	154	137.5%	58.6%	112	263
	イベント会場	55	250.0%	127.9%	22	43
	合計	209	156.0%	68.3%	134	306

注）上記は報告があった数字である。

４.活動の円滑な推進に向けた取組

酪農教育ファーム活動の量的拡大、面的普及、質的向上を円滑に推進するため、25年度においては、事業計画に基づき以下のとおり事業を実施した。

とくに、ファシリテーターの研修内容の一層の充実、酪農関係者と教育関係者のネットワークの構築、酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する研究、教材の開発などを行った。また、認証条件や制度運営に関する検証、諸外国で頻発する口蹄疫に対する防疫対策の徹底など、活動の基本となる事項についても留意しながら事業を行った。

（1）活動の量的拡大・面的普及を図る事業

１）認証制度の適切な運営と認証審査・研修会の実施

認証募集については、指定団体に案内するとともに、業界誌等を通じて広く酪農家・関係者に告知した（募集期間は6月12日～11月29日）。認証申請のあった牧場を対象に地域推進委員会・指定団体を中心に現地審査を実施し、12月25日の認証審査委員会で牧場とファシリテーターの認証申請書について審査を行った。

認証研修会についてはプログラムを厳選し、①酪農教育ファーム活動の目的・概要、②酪農教育ファームファシリテーターの役割、③交流活動における安全・衛生対策という内容で、札幌、東京、大阪の３会場において実施した。これにより、新たに８牧場と61名のファシリテーターが認証された。

２）酪農教育ファーム認証に係る広報活動等の実施

酪農関係者や教育関係者等に向けて、酪農教育ファームの認証制度や教育的な効果等について、日本教育新聞など業界紙（誌）で情報発信した。また、認証制度に関する説明会等が地域単位で開催された。

３）酪農家と教師の「出会いの場」作りのための研究会や情報交換会の開催

24年度に引き続き、酪農教育ファーム地域推進委員会が主体となり、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」として、酪農体験等を交えた共同の研修会や研究会、情報交換会を開催した。平成25年度は全国で12回開催され、273名が参加した。

４）酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する社会的認知の促進

小学校教員等が牧場で酪農体験を行うことを通して、酪農教育ファームの持つ教育的な価値や魅力を実感してもらうための体験学習会を静岡県のデーリィランドで開催し、30名が参加した。

また、酪農の教育的価値を訴求するため、酪農を教材とする授業作りを提案する研修会を東京で開催し、28名が参加した。

さらに、酪農教育ファーム活動への参画を促す「きっかけづくり」の場として、酪農家による学校への出前授業（酪農家講師の派遣）を首都圏の小学校８校で実施した。

（2）活動の質的な向上を図る事業

１）ファシリテーターに対するスキルアップ研修会の開催

スキルアップ研修会を全国主催３か所（大阪、岩手、東京）、地域主催４か所（北海道、東海、中国、九州）と全国７か所（163名受講）で実施した。全国主催では、「ほんとうのところ、ファシリテーターってなんだ？」をテーマに、「やり方」の先にある「あり方」に焦点を絞り、３会場とも同じ講師、同じテーマで行った。

参加者（個人またはグループ）が実際にファシリテーションを行い、意見を出し、グループで話し合うことで、体験の主体である子どもたちに気づきを促すことがファシリテーターの役割であることを気づかせるような内容の研修会を行った。また、口蹄疫に対する防疫対策を中心に、交流活動における安全・衛生対策についても再確認した。

なお、25年度が認証期限のファシリテーターのうち、研修受講により、50名のファシリテーターの認証期限が延長された。研修未受講者17名は認証期限が満了となるが、「特にやむを得ない理由」による未受講者の取り扱いについては、別途協議を行うことを予定している。

２）活動効果の検証

酪農教育ファーム活動の効果を検証するため、①酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する研究（研究代表：東京成徳大学　田村節子教授）、②酪農体験プログラムの効果検証に係る実践事例研究（研究代表：早稲田大学教職大学院　田中博之教授）を実施した。

①により、体験直後に友だちに対する思いやりが向上し、酪農体験の効果が認められたが、時間の経過とともにその効果は減少していることが明らかとなった。したがって、子どもの思いやりを定着させるためには、継続的な酪農体験が必要であると考えられる。②により、酪農体験活動は、付添いの保護者の援助と酪農家の支援の下で十分に可能であることが明らかとなった。

３）幼児向け及び中学校向け教材の開発

近年、認証牧場での体験機会が増加している幼児と中学生を対象とした新たな教材を開発した。幼児向けでは、牛が生まれてから出産し、最後はお乳が出なくなり出荷されるまでのストーリーで、いのちの大切さを伝える絵本を作成した。中学生向けでは、成長段階と社会的・職業的自立に向けた基礎的能力の発達に即して、人間の暮らしに多面的な役割を担う酪農業を社会との関わりの中で整理し、社会的な課題を通じて、酪農が自分（中学生）の生活と関わっていることを理解することを目的とした教材を作成した。

（3）活動を円滑に推進する事業

酪農教育ファーム活動を円滑に推進するため、全国の推進委員会及び全国と地域の推進委員会合同会議、ブロック及び県単位の地域推進委員会を開催した。また、酪農教育ファーム活動を実践しているファシリテーターと教育関係者の強固なネットワークを構築するため、酪農教育ファーム全国実践研究会議（８月９日、東京）を開催するとともに、全国的な教育関係者のネットワーク組織である日本酪農教育ファーム研究会の夏季研究集会（８月10日、東京）に協賛した。さらに、酪農教育ファームのホームページなど情報環境の整備や「感動通信」等による各種情報の提供を行った。

なお、24年度に引き続き、乳牛や酪農家とのふれあいにより東日本大震災で被災した児童などの心の傷を癒し、食といのちの大切さについて実感してもらうことを目的に、東北生乳販売農業協同組合連合会及び地域交流牧場全国連絡会が開催する「もーもースクール」（被災地の小学校３校で乳牛とのふれあい体験などの出前授業）に協力した。。